

滋賀大学経済学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目1-1 滋賀大学経済学部後援会 発行責任者／戸田 茂
URL: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=31>

目次	
経済学部創立90周年を迎えて 1	経済学部OBの声 5
記念シンポジウム開催	
体育会設立50周年を迎えて	ゼミナール紹介 6
学生の学び 3	キャンパス・アメニティ 8



経済学部長 梅澤直樹



本学部は1922年10月に彦根高等商業学校として開校され、翌年4月にはじめての学生を迎え入れました。そのときから数えて本年度で90周年を迎えます。

90年というのはほぼ一世紀に相当し、ずっしりとした重みを感じさせてくれる年月です。実際、この間社会はじつに大きな変動を蒙ってきました。東日本大震災は私たちの記憶に新しいところですが、90年前の1923年というのは関東大震災の年にあたります。その少し前から始まっていた経済不安が深まり、動乱と戦争の時代に突入してゆこうとする時代。本学は産声をあげたというわけですが、そして、敗戦と戦後の混乱を経て、日本は奇跡の高度経済成長を果たし、豊かな社会を謳歌するようになりまして。この間、IT技術に象徴されるように、技術発展にもめざましいものがありました。しかし、ご承知のように、現在はまだますます深化するグローバル化の荒波に

翻弄され、格差や貧困が再び大きな社会問題になってきています。

本学は、こうした社会の大変動を乗り越えて、いまや国立大学法人最大規模の、かつ情報管理学科やファイナンス学科という先端的学科や学際性に富んだ社会システム学科を含む6学科を備えた、豊かで多彩な教員を誇るユニークな経済学部で発展することができました。さらに、大学院博士前期課程に第三の専攻としてグローバル・ファイナンス専攻を加えるとともに、10年前には経済・経営リスク専攻という博士後期課程をも発足させました。

このように、本学は、時代のニーズに鋭敏に 대응して社会的使命を果たそうと努めながら発展してきました。また、教育内容や方法においても、先駆的に特色ある取り組みを実践してきました。たとえば、基礎となる専門諸科目(コア科目)の主要部分に、演習問題を実際に解きながら理論を体得するセツシヨンのクラスを多数設けて、確かな理解を培おうとしています。コア科目群には歴史系や哲学系の科目をも加えて、広い視野で経済を視る思考を誘うように工夫もしています。さらに、自らのめざすキャリアに向けてどのように学習を体系だてていったらよいのかを調べたり、それに照らして学習到達度を点検したりできる学習サポートフォリオシステムを提供しています。教室を飛び出して現実の課題を素材に、どこに問題があるか、それをど

のように解決してゆけばよいかに実践的に取り組む課題解決型学習のプロジェクト科目も多数開講するようになりました。セツシヨンでは、教員の指導の下に当該科目を得意とする学生が一般の学生を指導することも取り入れていますが、これは教えるという通常と反転した立場に立つ経験を通じて指導する側の学生の成長にも大きな効果を発揮しています。

こうしたことが可能となったのも、たえず物心両面で本学の教育・研究をご支援くださった後援会や同窓会のご理解があつてのこととあらためて厚く御礼申し上げます。と同時に、堅実な専門知識と幅広い教養を培うこと、かつ注入主義の学習ではなく主体的に学ぶ力をもってそうした学力を培うことという、右に記したような本学の教育の特色が、彦根高商以来の伝統であったことに、あらためて想いをいたしています。こうした教育の伝統こそ、多くの有為な人材を社会に送り出してきた本学の真髄でした。とともに、多様な要因が複雑に絡み合いながらどんどん変化してゆく現代社会だからこそ、この社会を担ってゆく若人にはぜひ身につけてほしい資質を育む教育であると確信しています。

こうした想いでいっそう教育・研究に励みますので、後援会の皆様には今後とも本学の歩みを温かく見守ってくださいますことを心よりお願い申し上げます。

記念シンポジウム開催

『競争と協調で拓くアジアの未来』
を開催

リスク研究センター長 久保英也

5月31日(金)に開催いたしました「滋賀大学経済学部開学90周年、リスク研究センター発足10周年記念シンポジウム」は梅雨の合間の爽やかな晴天に恵まれました。講堂が醸し出す歴史の重みに初めて滋賀大学を訪れた方々は感嘆の声をもらし、1階席、2階席を埋め尽くす参加者で会場は熱気に包まれました。

嘉田由紀子滋賀県知事をはじめ、願ってもないシンポジストの方々に参加いただき、アジアの国際政治の不安定性に民間としてどう立ち向かうかを報告、議論いただき、企業、



地方自治体、大学などが連携して草の根活動を長期的かつ安定的に続けることがこの不安定性を安定化させるという点で議論

の一致を見ました。それは、草の根活動ができる真の国際人を育てることが大学に求められることを意味し、大学人として身が引き締まる思いを同時に感じました。



シンポジウムの様子

【シンポジウムプログラムの概要】

- ・開会挨拶 梅澤経済学部長
- ・来賓挨拶 嘉田由紀子滋賀県知事
- ・基調講演 佐和隆光滋賀大学長
- 「日本の憂鬱〜韓国・中国・台湾の猛追に悩む日本〜」

・シンポジストによる報告

- ・持本浩徳近畿経済産業局通商部長
- ・稲野和利野村アセット取締役会議長
- ・古川幸一平和堂顧問
- ・元専務取締役(中国室長)
- ・中塚則男関西広域連合事務局長
- ・嘉田由紀子滋賀県知事
- ・デイスカッション
- ・まとめ 久保リスク研究センター長

体育会系設立50周年を迎えて

体育会顧問 宮本 孝

滋賀大学経済学部の体育会設立50周年記念式典が、本年11月23日に盛大に挙行された。昨年の7月に行われた体育会OB組織「陵水呑亀会」の席上で若園会長から提案があり、早速、体育会OB及び体育会幹部10名で準備委員会を立ち上げ、式典の準備が進められた。当日は50周年記念式典に先立ち、陵水会主催の90周年記念講演が経済学部講堂において催され、多数のOB諸兄ならびに大学関係者が、丹羽宇一郎氏(伊藤忠商事前会長、前中華人民共和国駐劔特命全権大使)の講演を聴衆された。引き続き、彦根ビューホテルで体育会設立50周年記念式典が実施され、準備委員会で推薦された3氏(山内隆、三神憲一、清水哲雄)と2団体(陵水艇友会、陵水帆人会)に感謝状と記念品が、体育会クラブ27団体OB会組織から推薦された54名の功労者に経済学部体育会から感謝状と記念品が贈呈された。式典終了後の祝賀パーティでは、十数年ぶりに会った学生時代の仲間と思いの出話等で大いに盛りあがっていた。

さて、滋賀大学経済学部体育会は、本学の体育・スポーツ活動や学生生活の活性化を図り、他大学との交流を円滑にするために、大学内で体育・スポーツを統括する組織が必要であるかと、学生の中から声が揚がり、半世紀前に設立された。現在、経済学部の体育系クラブは27団体が公認されており、それらを統括する「体育会」は各クラブから推薦された代表の27名で構成されている。毎年10月に開催される体育総会で体育会本部の執行部が決まり、新幹部としての活動がスタートする。12月には体育会系団体の幹部を対象に、一泊二日の合宿「リーダーズトレーニング」で、講演会や討論会を通してリーダーのあり方等について話し合う合宿研修を、翌年の6月には新入生を対象に、一泊二日の合宿「フレッシュユマンキャンプ」で、新入生の交流を深めることを目的にした研修会を企画、運営している。両研修会では、討論会やグループディスカッションで積極的な話し合いが行われており大変意義のある研修会になっていく。このほかに、他大学との定期戦の支援、各クラブの学内大会の支援、献血活動など幅広く体育・スポーツに関する支援やボランティア活動を行っており、学生の課外活動に素晴らしく貢献している。

学生達が経済学、経営学を真剣に学ぶことは当然ですが、課外活動を通して人間力を高めることも、これから益々重要ではないかと思っておりますので後援会の皆様、今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。



TOEIC-IPテスト

本学部では、平成19年度より、英語教育の一環として、TOEIC-IPテストを実施しています。

TOEICは、英語によるコミュニケーション能力を評価する世界共通のテストであり、世界約60ヶ国で実施されています。TOEICは、大学のみならず、企業でも、新入社員・昇格の要件や海外出張や駐在の基準としても利用され、社会人も関わりが深い検定試験のひとつであり、就職活動時にスコアを尋ねられたりします。また、ビジネスのグローバル化が進み、異文化や地域間のコミュニケーションを促進する情報通信や移動手段が著しく発達し、グローバルなコミュニケーション言語として英語が使われるようになりました。

このような現状下において、1回生時にTOEICを受験し、英語能力を国際基準で測ることは極めて有意義であると言えます。1回生時に試験を受け、実力を知り、さらなる英語能力の向上に役立て、3回生時にその成果を確認しながら、英語によるコミュニケーション能力を身につけていただきたいと願っています。

なお、今年度は、平成25年9月26日にTOEIC-IPテストを実施し、約9割の学生が受験しました。その結果は以下のとおりです。

表2 滋賀大学生の平均点と最高点

基本データ	Listening	Reading	Total
受験者数	602		
平均点	236.5	215.8	452.3
最高点	495	465	920

表1 他大学生の平均点と最高点

基本データ	Listening	Reading	Total
受験者数	5945		
平均点	244.0	185.9	429.8
最高点	495	490	985

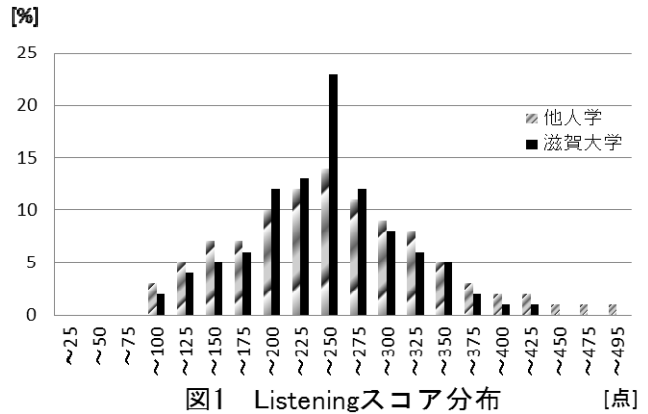
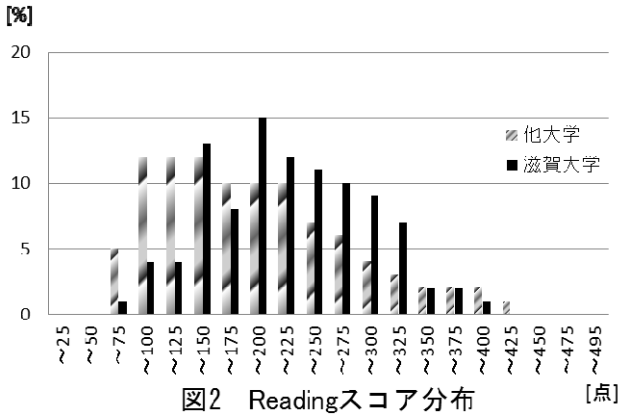
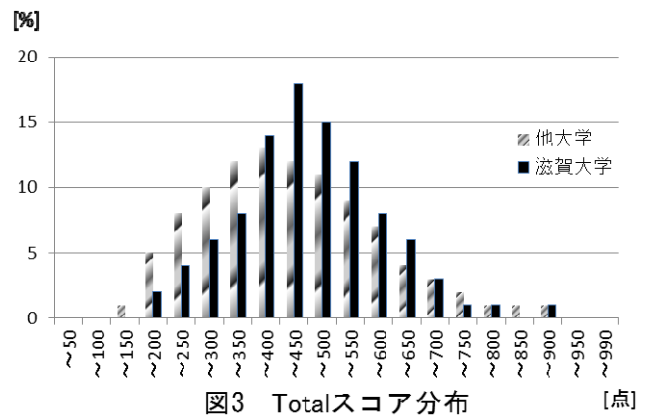


表1・2より、本学生と他大学生の平均点を比較すると、リスニングスコアは本学生の方が7・5点低いです。リーディングスコアは本学生の方が29・9点も高くなります。また、図1・2のスコア分布から、リスニングについては他大学生と大差はありませんが、リーディングは本学生の方が優秀であることは明白であり、図3のトータルスコアに繋がっています。

今後は、今年度の入学生から3回生時にもTOEICを受験する予定となっておりますので、1回生時のスコアと3回生時のスコアを比較することによって、今後の英語力の伸び率が測れる予定です。

【結果総評】



個別成績表

この成績表の見方を参考に、学生本人のこれまでの修学状況をご確認いただきたく存じます。

本学部では、例年6月頃に学生本人の成績情報を保護者等の皆様へもお知らせし、今後の修学支援・相談へご活用いただくこととしております。

成績表の見方について

在学期間	平成 年 4月 1日入学 平成 年 3月 25日卒業 在学期間：4年	学籍番号 2099999	氏名	ケイ 太郎 経済 太郎 Taro Keizai 昭和 年12月25日 男															
所屬	経済学部 経済学科 昼間主コース 4年次																		
科目名	教員	単位	評点	成績	区分	年度	期	開	科目名										
[教養教育]									統計学A										
[大学入門科目(教養教育科目群)]									統計学B										
<大学入門科目>									社会経済史										
大学入門セミナー(教員太郎)	教員 太郎	2			必修	*	春	星	簿記会計A										
英会話基礎	教員 太郎	1			必修	*	春	星	簿記会計B										
大学英語入門	教員 太郎	1			必修	*	春	星	簿記会計B										
情報リテラシー		2			必修	*	春	星	法学										
[全学共通教育]									<プレセミナー>										
<人文科学分野>																			
人間と倫理	教員 太郎	2																	
人間と心理	教員 太郎	2																	
<社会科学分野>																			
経済学からの問い	教員 太郎	2																	
経営学からの問い	教員 太郎	2																	
現代の金融	教員 太郎	2																	
<自然科学分野>																			
情報学への招待																			
情報と科学																			
数学的思考																			
<特定主題分野>																			
環境問題を学ぶ	教員 太郎	2			選択	*	秋	星	<実践・体験科目>										
こころと身体の科学		2			選択	*	春	星	現代の経営(滋賀経済同友会)	教員 太郎	1								
[外国語科目(教養教育科目群)]									就業体験II(インターンシップ)		2								
<英語>																			
英語I a					必修	*													
英語I b					必修	*													
英語II(教員太郎)					必修	*	春	星	<学科必修科目>										
英語II(教員太郎)					必修	*	秋	星	経済学で学ぶ	教員 太郎	2								
<第二外国語>									<経済学科>										
中国語I a H	教員 太郎	1			選択	*			経済学史I	教員 太郎	2								
中国語I a A	教員 太郎	1			選択	*			経済学史II	教員 太郎	2								
中国語I b H	教員 太郎	1			選択	*			計量経済学I	教員 太郎	2								
中国語I b A	教員 太郎	1			選択	*			公共経済学I	教員 太郎	2								
[体育科目(教養教育科目群)]									公共経済学II	教員 太郎	2								
<体育科目>									財政学総論I	教員 太郎	2								
スポーツ科学I	教員 太郎	1			必修	*	春	星	財政学総論II	教員 太郎	2								
スポーツ科学II	教員 太郎	1			必修	*	秋	星	地方財政論	教員 太郎	*								
[専門教育]																			
[学部専門共通科目(専門教育科目群)]																			
<コア科目>																			
ミクロ経済学A																			
ミクロ経済学B																			
マクロ経済学A																			
マクロ経済学B																			
コア政治経済学																			

「科目名」欄
前学期までに履修した科目

「評点・成績」欄
「評点」欄に成績評価を100点法で採点し、「成績」欄に優・良・可・不可で評価されています。
※「不可」の科目は、就職活動や進学などで必要とされる「成績証明書」には記載されません。(合格科目のみが記載されます。)

「単位」欄
前学期までに履修した単位数

「区分」欄
当該科目の科目区分
必修・・・必修科目
選必修・・・選択必修科目
選択・・・選択科目

「年度・期」欄
履修した年度と学期

「開」欄
昼夜開講区分
昼：昼間開講科目
夜：夜間開講科目

「基準単位」欄
各科目区分の卒業要件単位数が記載されています。
(要件単位数以外にも卒業のために必要な条件がある場合があります。)
詳細は学生本人がお持ちの学部規程をご参照ください。
「修得単位」欄
これまでに修得済の単位数が記載されています。

基準単位・修得単位												
	教養	大学入門	大学入門	全学共通	人文科学	社会科学	自然科学	特定主題	外国語科	英語	第二外国	体育科目
基準単位	36	6	6	20	2	2	2	4	8	4	4	2
修得単位	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	体育科目	専門	コア科目	プレセミ	専門語学	専門演習	実践・体	プロジェ	その他科	学科必修	経済学科	ファイナ
基準単位	2	88	18	2	2	8				2	14	
修得単位	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	企業経営	会計情報	情報管理	社会シス	教職科目	教育学部	査定外	総合計				
基準単位												
修得単位	*		*	*				**				

※本学部を卒業するためには、4年以上在学し、卒業要件を満たさなければなりません。
卒業要件の詳細は学生本人がお持ちの「経済学部規程」で確認し、十分理解した上で各自が責任をもって履修し、単位を修得するようご指導ください。

経済学部OBの声

私の夢のきっかけとなった大学時代

有限責任あずさ監査法人

大阪事務所勤務 蓬 萊 雄 太

(平成22年度経済学部会計情報学科卒業)

自己紹介と職業紹介

はじめまして。私は平成22年度滋賀大学経済学部会計情報学科卒業生の蓬萊雄太と申します。私は大学在学中に公認会計士試験に合格し、現在、有限責任あずさ監査法人で働いています。

有限責任あずさ監査法人では、主に財務諸表監査とIT監査に従事しています。

あまり聞きなれない言葉かとは思いますが、財務諸表監査とは、企業の収益性・健全性・成長性を示す財務諸表(決算書)が正しく作成されており、信頼できるものであることを企業とは独立した第三者である公認会計士が確認し、保証する業務です。また、IT監査とは、財務諸表の数値の基となる情報が、システム上、正しく処理され、財務諸表に反映されているかを確認する業務です。これらの業務はいずれも公認会計士のみが行うことができる業務となっております。

公認会計士の仕事の魅力は、様々な会社に監査に行くため、各種業界のことを知ることができ、また、ク



奈良 室生寺にて

ライアント先ではその業界での経験を多く積まれた方々と話す機会があるため、視野を広く持つ点です。私も監査で培った経験を活かして将来、コンサルティング業務や株式市場への上場支援など幅広い分野で活躍できる公認会計士になりたいと考えています。

大学時代

大学は私にとって、私の夢のきっかけとなった、重要な人生のターニングポイントであったと考えています。というのも、私が公認会計士を目指すきっかけとなったのは、大学に入学してすぐの夏休みに参加した陵水会計人会のインターンシップだったからです。インターンシップでは忙しい中、監査法人や会計事務所まで公認会計士または税理士としてまさに第一線で活躍されておられる、滋賀大学OBの方が実際にどのような業務を行っているのか、また仕事のやりがい・苦労は何か等、貴重な話・経験談を聞かせて頂きました。そのインターンシップから私は会計・監査の専門家である公認会計士という仕事を初めて知り、日本経

済を陰で支えているその仕事の内容に強く興味を惹かれて、インターンシップが終わってからすぐに公認会計士を目指すことを決めました。インターンシップに参加する前は全く、公認会計士という仕事も知らなかったもので、今考えると参加していただろうかと思ひます。

在学生の皆様も在学中、色々なイベントに参加する機会があるかと思いますが、できるだけ積極的に参加されることをお勧めします。参加することで価値観が広がると思いますし、私のように自分では思っていた方向に人生が進み出すかもしれません。

在学生へのメッセージ

私から在学生の皆様にお伝えしたいことは、2点あります。

まず、1点目は、自分が興味のあることに夢中になって取り組んで頂きたいということです。それは趣味でも勉強でもサークルでも遊びでも何でも構いません。大学生は人生で最も自由な時間があって、それをフルに活用できる力もある貴重な時期



「地中海のヘソ」マルタにて

です。大学で一生懸命取り組んだこと、得たものは社会に出る上で、自分の大きな武器になりますし、例えば取り組んでいる中で直面した困難を乗り越えることは大きな自信にもつながります。大学を卒業する時、「私は大学でこれを頑張った!!」と言えるように、まだ何となく大学生活を送っている方はこれを機に自分の興味があることは何かをじっくり考えてみてはいかがでしょうか。

2点目は大学在学中にできるだけ海外に行くって頂きたいということです。海外に行くという経験は、語学を学習できるだけでなく、異文化に触れることができます。私も回数はいませんが、4回生の冬休みにマルタ共和国に2週間ほど旅行に行きました。英語があまり得意ではなかったのですが、一生懸命拙い英語とジェスチャーで自分の思いを伝えることは良い経験となりました。また、日本とは全く違った環境を経験し、またマルタ共和国の文化や歴史を知ることができ、自分の視野が広がったと感じました。

皆様も是非、大学在学中に海外に行き、異文化に触れて、様々なことを感じ、価値観を広げてください。

最後に滋賀大学は自然豊かな環境の中、自由に過ごせる大学です。滋賀大学という大学をフル活用し、大学でしかできない経験をしてください。その経験はきっと皆様が今後、人生を歩んでいく中で大きな武器になります。皆様が素敵な大学生活を過ごされることを願っています。

ゼミナール紹介

★ゼミナールとは

通常ゼミナール、略して「ゼミ」と呼んでいる授業は、経済学部の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」といった一連の4つの授業科目を意味します。これらの授業科目は、2回生の後半に各学生の選択希望に基づき、一部調整されますが、受講クラスが決定されます。その後、3回生の春学期から授業が始まり、以後継続して4回生の秋学期までの4つのセメスターで連続して履修することになります。

「ゼミ」の授業では、各教員がクラスを受け持ち、各クラスは数人の受講生から20名程の受講生で構成され、平均1クラス10名程となっています。また、ゼミは3回生から2年間、同一のクラスで同一の教員が、担当の専門分野の学問的内容について受講生の学習ないし研究を指導することになっています。

3回生のゼミ（演習Ⅰ・Ⅱ）では、一般には、まず専門分野の基礎的内容の理解を固め、次に専門分野の展開的な内容や発展的な研究につなげて行くように指導されます。続く4回生のゼミ（演習Ⅲ・Ⅳ）では、専門分野の発展的な研究を深めながら、同時に2年間のゼミ指導の

仕上げとしての「卒業論文」を目標として、この作成のための指導が行われます。このようにゼミ担当の各教員は「卒業論文」の完成までそのクラスを受講生を一貫して指導することになっています。

夜間主コースの学生にとっても昼間主コースで開講されているゼミは選択可能であり、夜間主コースの多くの学生（近年では8割程）が受講しています。夜間主コースでは昼間主コースのゼミが必修科目ではないので、ゼミを選択しない場合でも、夜間主コースの開講科目である「課題研究」を選択することで、その担当教員の指導の下で、特定の専門的内容を課題として指定し、専門的に深めた形で研究することができま

す。ゼミは少人数教育の授業科目ですが、クラスでの研究報告ないし発表を担当することで主体的な学力とプレゼン能力が養われます。また、クラス内での授業ごとの議論や共同研究、報告の準備作業、ゼミ受講生間の日常の交流などを通じて、論理面だけでなく総合的なコミュニケーション能力や人間関係を形成する力も培われます。それゆえ、ゼミは大学4年間の後半に配置されている主要な授業科目であり、専門教育としてだけでなく、ゼミ担当教員が学生生活や進路の相談、指導を行うことで、学生指導の面からも総合的に重要な役割を果たしています。

ニッ石ゼミナール

ゼミで学ぶ意義

現代日本の大学では、教育や学びのあり方に変化が起きています。教室の講義では長い研究史のなかで確立されてきた専門知識の体系が教えられていますが、他方でそうした専門知識は現代の市民社会や職業労働のなかで実際にいかに役立つのか、どのように応用されるのか、いざば専門知識の「使用価値」が問われています。ゼミでの学びとは、学生たちが社会生活や専門職業のなかで生きていくために、一方で専門知識をより深く究めて能力を一層磨くとともに、他方でその知識のなかに社会に有用な「使用価値」を生み出す創



プレゼン発表に対する質疑応答

造のプロセスであると思います。わたしたちのゼミでは、様々な活動を通じて学生たちの主体性と論理的思考と創造性を身につけることを目標としています。

経済社会システムの多様性と変容

現代の経済社会は、日本においても世界諸地域においても大きな変革期あるいは移行期にあるといえます。このゼミでは、ヨーロッパ経済史ゼミの本来の専門領域を背景にして、戦後の日本と諸外国における経済社会の発展のあり方とその特質を歴史的に認識することをめざし、歴史的な思考のセンスと国際的な視野の広さを磨いています。そのために必要なことは、何よりも知識と問題意識を高めることです。そこで単にテキストを講読するだけでなく、新聞・雑誌・インターネットなどを通じて自分で現代的な課題テーマを立て資料を集めてプレゼンすることを繰り返しています。

認識を深めるためのゼミの取り組み

さらに専門知識のなかに自分に見合う価値を見出すために、ゼミでは三つの工夫をしています。それはLTD（話し合い学習法）とグループ討論、そして交流です。第一のLTDとはすでにいくつかの大学で実践されている授業の進め方で、事前にテキストの用語や主張を理解し、それを自分で知っている知識と関連付け、自分がそのテーマについてどう向き合うかを考えておき、ゼミの時

間にそれをもとにして話し合う学習法です。学生たちはこのためにかなしの時間を事前に費やしています。こうした事前学習は、第二のグループ討論の場で実践されます。ゼミのなかで5〜6人ぐらいのグループに分かれ、そのなかで学生は自主的に司会・タイムキーパーなどの役割を分担し、すべての学生が事前学習をもとにして積極的に議論に参加しています。ここで注意することは、教師が議論の中心に安易に介入しないようにすることです。目的は、知識の取得だけでなく、議論への参加を通じて自分なりの知識の価値をつくりだすことなのです。こうして学生たちは主体性と論理的思考を磨き、第三の他大学との交流に臨みます。それほど頻繁にはできていないので



グループ討論での積極的な議論

すが、いまのところは立命館大学のゼミと合同ゼミを続けています。LTDによる議論や個人報告などを通じて学生は自分たちの議論がどの程度通用するのか、異なった意見をどのように受容し、自分の考えを高めることに役立てるか考えます。こうしたゼミでのコミュニケーション活動をを通じて、専門知識と交流し、ゼミの仲間と交流し、さらに他ゼミや他大学、学外の企業や組織と交流して、多次元な個の存在を確立していくことがゼミでの学びの大切な意義であると考えています。そのために学生たちと一緒に様々な企画を立ててゼミを運営しています。

昨年度ゼミ生の就職先

京都銀行、野村証券、日興証券、東海東京証券、大同生命、京都中央信金、大垣信金、滋賀県信用保証協会、JA県連、JA伊吹、積水ハウス、三洋ホーム、あま市役所、アパレル関係

澤木ゼミナール

多様性の中で個を活かし、協働するゼミ

澤木ゼミには、毎年さまざまな個性の学生が集まります。当ゼミを志願してくれる学生は、毎年秋に開催されるゼミナール大会で上回生に接し、「先輩たちの雰囲気が良いから」という理由でゼミを選んでくれ

ることが多く、教員には嬉しいことです。ゼミは、例年さまざまな個性のメンバーで構成されます。成績の優秀な人、そうでない人、体育会系や文化系の団体で活躍する人々、アルバイトに勤しむひと、外国人留学生、編入生、留学などの計画留学生、入学時の選抜形態も様々です。そして、人数が比較的多いというのもこのゼミの特徴です。

ゼミ生は、時として人数が多いことや多様な背景の異なる個性のぶつかり合いに、「ゼミ生がまとまって行動することが難しい」と悩むこともありまます。ゼミ教員にとりましても、よりよいゼミづくりを見守る立場として責任は重大です。しかし、当ゼミでは、あえて多様性の中で個を互いに尊重する姿勢を育て、目標に向かって協力し合うことを目指しています。それが社会の縮図だと思いうからです。

課外活動に向けて行動する

ゼミでは、毎年、経営学系の国公立の大学生が主催する「経営学合同ゼミ合宿」や日本学生経済ゼミナールが主催するインナー大会（関西）、年度によってはインター大会（全国）や学内討論会などの行事に積極的に参加しています。また、同窓会組織、陵水会様のご支援を頂き企業見学も毎年実施しています。ゼミでは、自分たちで選出した研究課題に沿い、これらの研究活動で良い成果を報告するため、夏季休業期間

も自主ゼミを行いグループワークを通じてゼミ生同士の協働能力を高めます。今年度は、大阪で開催された経営学合同ゼミ合宿において、地域と文化を掛け合わせたビジネスプランの作成に奮闘し、3回生が大阪商工会議所様や企業様からの「企業賞」を、4回生は、全参加学生から評価を受けた「学生賞」を受賞しました。これららの課外活動をとにもすることにより、開講当初はぎこちない雰囲気から始まったゼミも、学生同士が驚くような行動力を発揮しながら活動を進め、ゼミ生同士が切磋琢磨しながら変化していくように感じまます。そして学生は、集団で行動することの苦楽を通じて、それぞれが関わっている他の諸活動との時間のマネジメントや情報共有の大切さなどを知り、就職や進学など個々の



2013年新歓送迎合同ゼミコンのゼミ生

ゼミ生とともに学ぶこと
 このゼミでは、ひとりひとりが主役として、ゼミの中で役割を担います。例年、平均20名前後のメンバーから構成されるゼミですが、誰ひとりかけてもゼミの和は築けないと感じます。着任して16年を迎え、お出逢いを頂いたゼミ生も大学院を合わせる300名近くになると思っています。OB・OGによる在学生への就活支援も行われ、卒業生にも感謝しています。集団行動が苦手な学生にこそ、このゼミでいろいろなことを経験して欲しいと願いながら、私自身も日々学生から教えられています。

後援会の皆さまのご協力を賜りながら、今後も大事な学生と日々成長

進路活動へのステップを歩んでいきます。



経営学合同ゼミ合宿でのプレゼンテーション
 (於：大阪シティプラザホテル)

できればと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ゼミ生の進路先

アース製薬、味の素冷食、関西電力、OTTO、IHI、三菱電機、シャープ、デンソー、豊田合成、タカラスタンダード、村田製作所、東海東京証券、鈴木、双日、大広、三菱東京UFJ、三井住友銀行、みずほ銀行、関西アーバン銀行、滋賀銀行、十六銀行、京都銀行、百五銀行、各都市信金、パソナ、NTTグループ会社、JAFCO、日本郵政、高島屋、阪急百貨店、松坂屋、平和堂、国税局、地方自治体(警察官、市役所)、国立大学大学院等々

キャンパス・アメニティ

☆総合研究棟「士魂商才館」の新築
 この建物は附属史料館に隣接して現在建築工事が進められ、今年度末に完成予定です。

3階建、延べ面積1,960㎡で現在の附属史料館の約2倍くらいの面積になります。

一階部分には、経済経営研究所とリスク研究センターのほか、資料展示コーナー、閲覧室、集密書架などが、2階には史料館、研究所の書庫、また3階には図書館書庫と、大小のセミナー室を設け、授業だけでなく、シンポジウムや講演会、各種

セミナーなど多用途に利用できるスペースとして活用する予定です。

☆経済学部弓道場の新築

金龜町(テニスコートの向かい)にありました弓道場が、場所を馬場2丁目に移転し新築されます。この工事も現在進められており、今年度末に完成予定です。

☆経済学部運動場の天然芝生化

9月15日(日)グラウンドの天然芝生化が完成し、記念式典を挙行了しました。

今回の芝生化は、日本サッカー協会の「JFAグリーンプロジェクト」芝生化モデル事業に採択され、ポット苗5万株の提供を受け実現したもので、6月に学生、教職員により植付け作業を行い、3か月を経て



総合研究棟『士魂商才館』完成予想図



一面のグリーンカーペット

見事にグラウンド一面がグリーンカーペットで覆い尽くされました。天然芝生化に伴い、学生の活動中の事故を防止するだけでなく、土埃により周辺住民の皆さまにご迷惑をお掛けすることもなくなります。今後、授業やクラブ活動で益々活用されることを期待しています。

☆太陽光発電設備など

校舎棟の屋上に太陽光発電設備が設置されることになり、研究棟の屋上に続いて2基目の同設備になります。また、体育館には、災害時に断水時でもトイレの利用が可能となるよう雨水活用システムを設置、あるいは研究棟の給排水管の全面改修などのライフライン設備の工事も進められ、キャンパス・アメニティの改善が進められています。